

研究タイトル:

中央と地方—16世紀ヴェネツィア共和国を実例として—

氏名: 中平 希 / Megumi Nakahira E-mail: nakahira@toba-cmt.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 日本西洋史学会、イタリア学会、地中海学会、広島史学会

キーワード: ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近世史、イタリア史、ヴェネツィア共和国、16世紀、中央と地方

技術相談

提供可能技術:



研究内容:

中平 希 著

Sogensha
History Books
創元世界史ライブラリー

ヴェネツィアの歴史

海と陸の共和国



地中海交易で財をなし、共和国として千年以上にわたって命脈を保った海上国家ヴェネツィア。ビザンツ世界とローマ・カトリック世界の間という特殊な立地を活かした海上交易や海上領土の存在が注目されがちだが、実はその陸上領土が重要な役割を果たしていた。本書では伝説の5世紀の建国から説き起こし、18世紀末の共和国滅亡とイタリア王国への編入までを扱う。「史上最も長く続いた共和国」の好個の通史。

創元社

近世イタリア領域国家の中央—地方関係

「地方分権と財源委譲」は、現在の日本でも重要なトピックのひとつですが、中央政府と地方の現地勢力との権力の駆け引きには長い歴史があります。

中世のイタリアでは何百もの都市国家がしのぎを削っていましたが、近世になると、いくつかの有力な領域国家が覇を競うようになります。ヴェネツィア共和国もそのひとつとして北イタリアに支配領域を広げていましたが、この領域国家の構造は近代以降の中央集権国家とは性質の異なるものでした。国家全体を統一する法律は存在せず、中央政府は地方のそれぞれの勢力と個別に条約を結び、中央政府が派遣した行政官は、それぞれの条約と現地の法にしたがって行政を統轄すると定められていました。中央政府としては、いかにして順調に税を徴収するかが課題であり、現地勢力にとっては、中央からの課税をうまく回避して、逆に政府から自分たちの利益を引き出すことが課題でした。さらに現地の勢力間でも対立があり、都市との力関係で弱い立場にあった農村共同体は、中央政府に訴えることで問題の是正を図ろうとしていたのです。(2018年3月出版)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	